

高度医療人材養成拠点形成事業（高度な臨床・研究能力を有する医師養成）
 タイプB 取組の概要と推進委員会からの主なコメント

代表校名 (連携大学名)	琉球大学
事業名	「伴走型支援を軸とした研究支援部門の改編による心不全臨床研究の推進と研究人材養成」と「専任実習指導医配置と治療シミュレーション導入、患者参画による診療参加型実習の質の向上」
事業責任者	琉球大学大学院医学研究科教授 植田 真一郎
事業の概要	
<p>研究支援に習熟した臨床研究専門職による立案から論文まで一貫した伴走型支援の導入を軸に、医療情報の研究への利活用支援、病棟、外来への研究支援者配置、患者市民参画部門開設など、研究支援体制の改編、強化、院内他部署や県内医療機関との連携を図ることで、心不全及び関連疾患の国際水準の臨床研究を推進する。これらの支援のもと沖縄心不全イニシアティブを設立し、画像データも含む診療情報のデータベース化とリアルワールドエビデンスの創出、これまでの実績を活かした AI 画像診断や ePRO 収集システムの開発、その臨床的有用性の分散型臨床試験による評価を行う。人材養成のため臨床系大学院生を臨床研究支援部門に雇用し 0JT プログラムを実践する。診療参加型実習においては専任実習指導医配置による質の向上を図りつつ、治療シミュレーション実習、Post CC OSCE 課題や患者市民参画を導入し、研究力を有する優れた医師を育成する。</p>	
推進委員会からの主なコメント ○：優れた点等、●：改善を要する点等	
<p>○地域で実績のある心不全を中心としたデータを電子患者報告型アウトカム（ePRO）や分散型臨床試験（DCT）などにより、患者が来院しなくても情報を収集するシステムを作ろうとする計画であり、地域に根差した複数の基盤データ（離島、へき地医療有用な AI 心臓超音波診断、県内心不全ゲノムコホートなど）を県内外の研究機関と連携する計画は優れており、実現すれば人的な労務の軽減とデータ制度の向上が期待される。</p> <p>○データベース作成システムや患者用アプリの開発、伴走型臨床研究支援の推進のために研究専門職を確保することが実現できれば、医師の負担を増やさずに研究を推進できる。心不全の AI 診断法は、離島僻地医療などの有力なツールともなる。また、大学以外の近隣機関の医師にも研究支援を行うとする計画も優れている。</p> <p>○臨床研究専門職、CRC、リサーチクラーク、データ管理専門家や、臨床研究を指向する大学院生を特命教員（臨床研究専門職アシスタント）を雇用する計画。</p> <p>○保健学科や工学部の学生を研究専門職アシスタント補佐として採用した実績があり、これを医学部にも拡大する計画は、研究を推進する一助となるだけでなく、学生の研究スキルの向上に資する。</p> <p>○ELSI/PPI 部門の設置、専任実習指導医を配置し、post CC OSCE に対して課題を作成することを目指し、活用可能なシミュレーションコンテンツを開発するなどの具体的な目標と方策を計画に入れていることは優れている。</p> <p>○医学生の頃から支援体制を学べれば研究リテラシーの向上、負担の軽減にもつながる。</p> <p>○各部門の会議の開催時期、システム構築の工程、新たな臨床試験の開始時期など期待される結果の発信の時期まで計画されている。</p> <p>●協力機関と当該大学との役割分担が不明確で、国際レベルの臨床研究推進に関する記載は不十分である。</p> <p>●TA、RA、SA の活用について記載がなく、養成人数が不足している印象がある。</p> <p>●専任実習指導医の業務が多岐に渡るため、適切な役割分担となるよう検討が必要である。</p> <p>●優れた研究支援の取組に、学部学生がなんらかの形で接するようであれば尚良い。</p>	